卒業にあたって

平成 31 年 2 月 27 日
卒業証書授与式 式辞より

大阪府立
北かわち皐が丘高等学校
第９回 卒業証書授与式

春夏秋冬、季節がめぐり、今、若者たちが扉を開いて、希望の道へと新たな一歩を踏み出すときを迎えました。

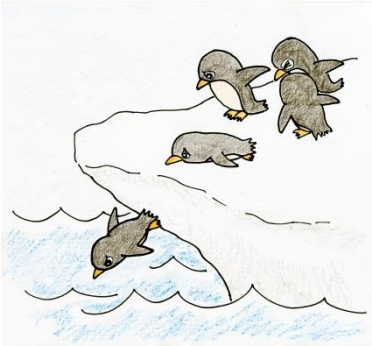
・・・・・

皆さんには、「ファースト・ペンギン」になってほしいと思っています。

ペンギンは、鳥ですが、空は飛べません。その代わり、大きな海を素速く泳ぐことができます。群れをなして行動し、海の中の魚をエサにしています。

けれども、海の中は、危険がいっぱいです。どんな敵や困難が待ち受けているか分かりません。もしかすると、フカに食べられてしまうかもしれない。

だから、皆、海に入ることを躊躇します。



そんなときに、群れの中から一番先に海に飛び込む、勇気あるペンギンのことを、「ファースト・ペンギン」と言います。

面倒なこと、誰もやりたがらないこと、でも　誰かがやらなければならないことなら、自分が率先して行う。失敗を恐れずに、胸を張って堂々と真っ先に事に当たる、そんな人になってほしいと思っています。

今年の NHK 大河ドラマは「いだてん～東京オリムピック噺(ばなし)～」という物語。

日本が初めて五輪に参加したのは、今から 100 年以上前、1912 年のストックホルム大会。そのときマラソンに挑んだ金栗四三という選手が主人公。

彼は五輪予選と知らずにマラソン大会に出場し、当時の世界記録を上回るタイムで優勝。日本人で最初の五輪代表に選ばれます。

しかし、辞退を願い出ます。「自分には荷が重すぎる」

そこで、日本体育協会の嘉納治五郎さんが説得します。

「欧米との差を埋めるためには、まず、誰かがやらなければならない。勝ってこいというのではない。最善を尽くしてくれればいいのだ。日本スポーツ界のために『黎明(れいめい)の鐘』となってくれ」

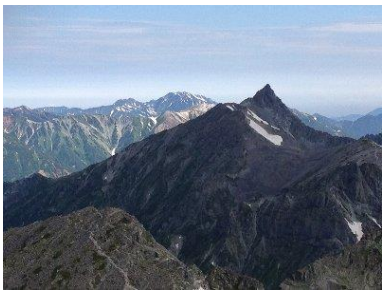
※「黎明」とは、夜明けという意味。

この言葉で、金栗選手は世界と戦う覚悟を決めたといいます。

しかし、残念ながら、結果は散々でした。
マラソン当日はたいへんな猛暑で、彼はレース途中で意識を失って倒れてしまいます。
さぞ、悔しかったでしょう。もう日本には帰れない、そんな気持ちだったろうと思います。
けれども、その挫折を乗り越えて、金栗選手は五輪に三度出場、箱根駅伝を創設するなどし、「日本マラソン界の父」と呼ばれるようになります。
壁を乗り越えた先に、夜明けが来ました。

これから、多くの人と出会い、驚くこと、びっくりポンなことが一杯あると思います。
上手くいかないことが、思っていた以上に多いかもしれない。
でも、君たちを応援する人もまた、思っている以上に多いですよ。
ご家族も、そして我々 皐が丘の教員もその一人です。
いろいろなことを経験し、吸収して、器の大きい、心やらかい、ファースト・ペンギン、新しい世界に飛び込む　勇気ある人になってください。

♪ 大空を翔びかう鳥たちよ、
今より遙か高くのぼれよ。
青春を旅する若者よ、
君が歩けば、そこに必ず道はできる。♪
（永井龍雲「道標(しるべ)ない旅」より）


奥穂高岳山頂より望む 槍ヶ岳

皆さんの前途に幸多かれと祈ります。
頑張ってください。